

# 糸教調 男子

オオカミ様と  
子猫ちゃん

あづみ悠羽

原作:榎原まき  
イラスト原案:つきのおまめ

5

オパール  
COMICS

彼はベッドの上では  
常に支配者で

わたしを縛る存在

彼の求めにはすべて  
応じてきた

俺だって…今まで  
深雪以外の女を  
何人も抱いて  
きたんだよ？  
恋は一つじゃ  
ないからね

深雪も  
俺以外の男に  
抱かれる日が  
来るんだろう

わたしは彼しか  
愛していないのに

—っ  
どうしてそんなことを  
考えるの？

わたしが彼以外のもので  
いつてしまったせい？

それとも—

わ…わたしが嫌に  
なったんですか…？



恋は  
夢みたいなもの  
いつかは醒める

深雪もそのうち  
俺との夢から醒めて



そうじゃない

深雪に  
嫌になられるのは  
俺のほう



そんなことは――

俺も若い頃  
たくさん  
恋をしたよ



心から愛した  
女性もいた

でもみんな  
最後はいらなくて  
捨てられた





いやっ!



他の男と…新しい  
恋の夢を  
見るのかも——



悲しいことを  
言わないで…

彼が泣いている  
気がする



この恋がいつか  
終わると思ってるの？

心から愛した  
女性のことを  
忘れられないの？

他の男の人なんて  
いやです…

わたし…誠司さんと  
ずっと一緒に  
いたいのに…

わたしは…  
彼の特別に  
なれないの…？

じゃあ俺を  
求めてよ

俺は…深雪に  
求められたいよ…

誠司さん  
大好きです

わたしを  
抱いてください…

お願いします



深雪の  
欲しいものを  
あげるよ



はは

俺の言いつけどおり  
しっかり中を  
ほぐしていたね

えらいよ



ああっ

んっ

はは

はは

はちゅっ

はちゅっ

あう

奥まで  
とろとろだ…



ごめんね  
意地悪なことを  
言ったりして

…ああ  
わかってる

誠司…さん…  
愛してる…

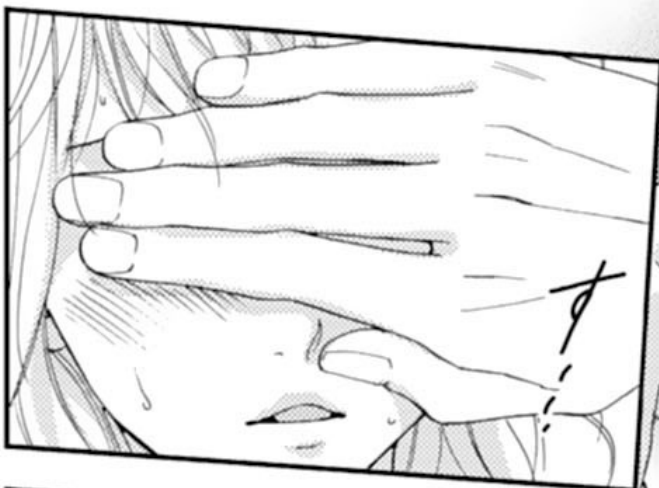
信じてください…

(ぼん)

彼はわたしが  
セックスの虜に  
なってるだけって  
思ってる？

—まさか

ああ  
あ



ん…そう  
いい子だね



もう何も  
考えなくていいから

一緒に気持ちよく  
なろう？



ご褒美だよ

んっ…  
あ…ああああ

せいじ…  
さあ…あ

あああ

はん

はん



深雪…

俺の可愛い  
深雪…

好きだよ

好きだ

愛してるよ…



わたし…も  
だいすき

あいしてる

身も心も許せるのは  
相手が誠司さんだから

でもどうして

うまく伝わって  
いない気がする—

ふふ…ありがとう



このまま  
中に出して  
あげようか？



中…どう？



前に言ったよね

深雪の初めては  
全部  
俺にくれるって

初めての  
中出しだよ  
…どう？



もっと深く  
一つになれる…？

彼の…すべてが  
もらえるなら…

し…

なかに…

おねがい…





え...

ぬいぽ...

う...う...

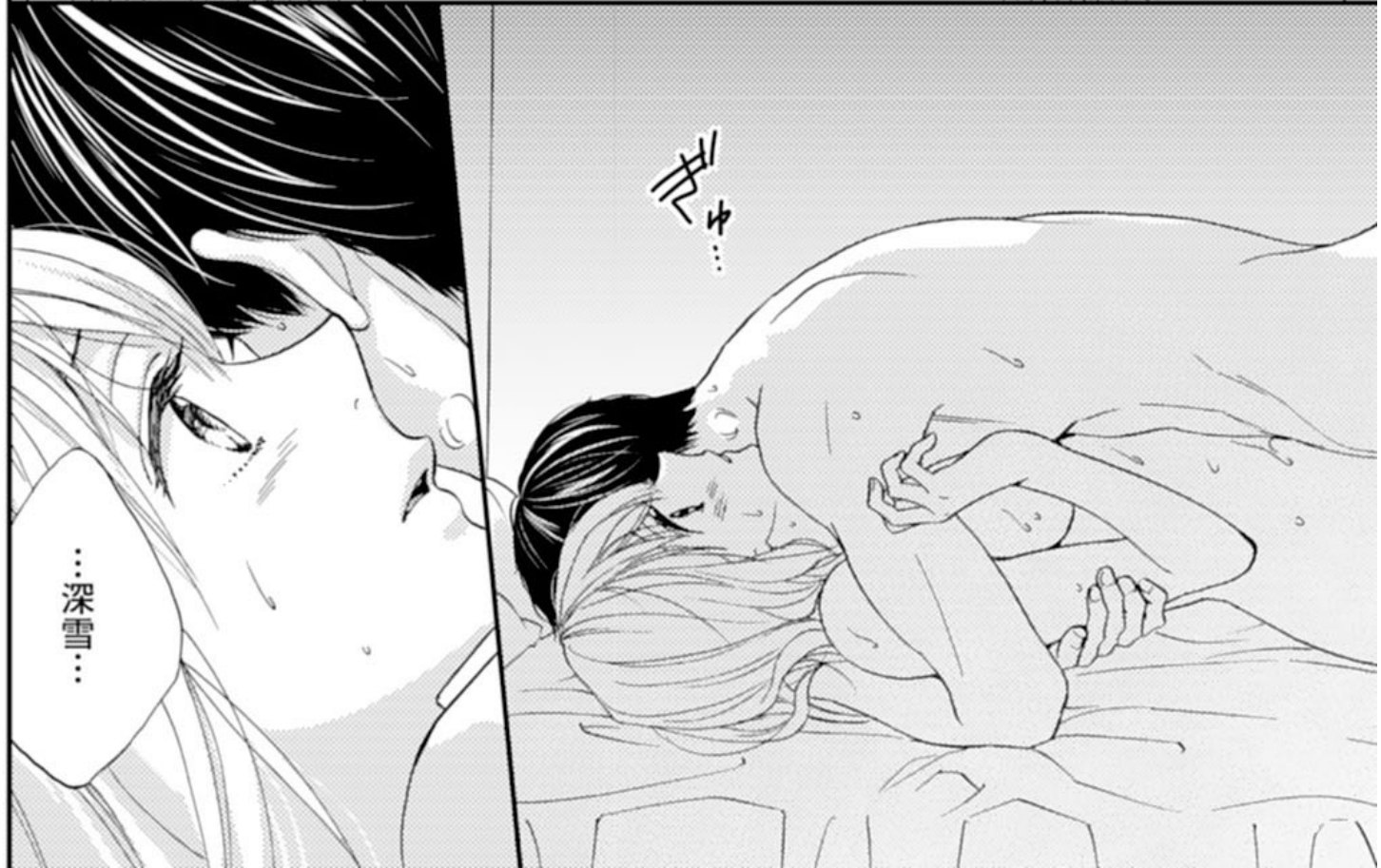
う...う...



あなたに初めてを  
捧げたかったのに...

あ...

ど...ど...ど...




...深雪...

きゅ...



ごめん…

こんな男で…



…謝る理由も  
何もわからないけれど

それでもいい

言えない何かがあるのだとしても

彼のことなら  
きつとすべてを  
愛せるから——

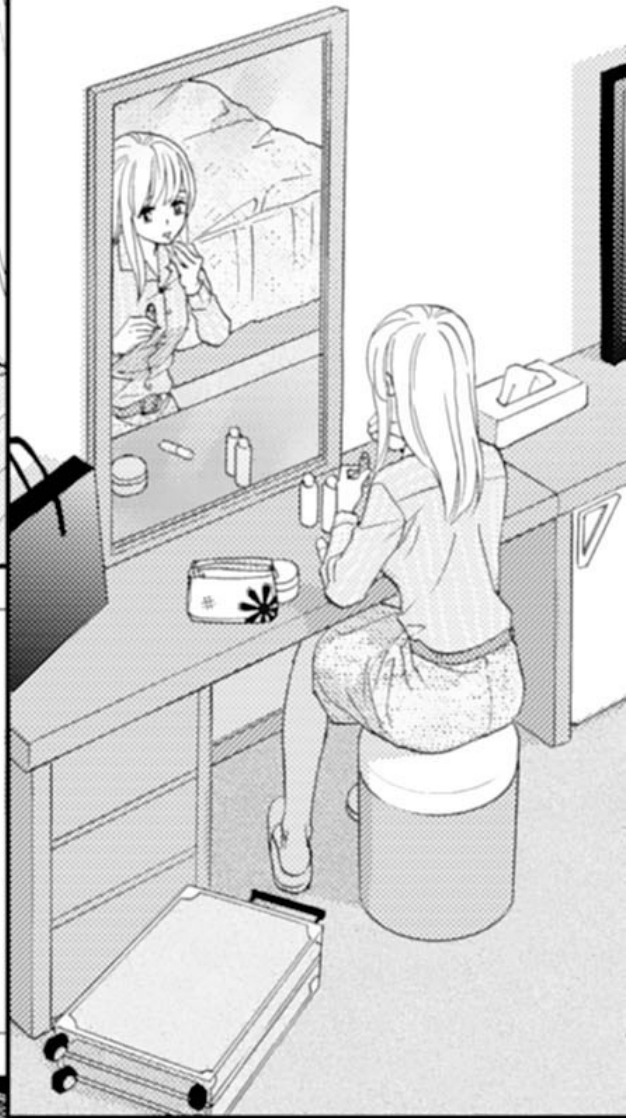


7:37





：朝になったら  
いつもの  
誠司さんだった



ごめん  
昨日の俺…なんか  
おかしかったな



まったく…  
いい年して  
恥ずかしいよ

自分を制御  
できなかった  
俺が悪い

深雪の  
せいじゃないよ



誠司さん

そういえば  
中川さんの相談って  
何だったんですか？



中川<sup>なかがわ</sup>さんと会って  
戻ったら様子が  
おかしかった気が



あの昨夜の中川くんは  
何の相談でした？

寝不足...っ

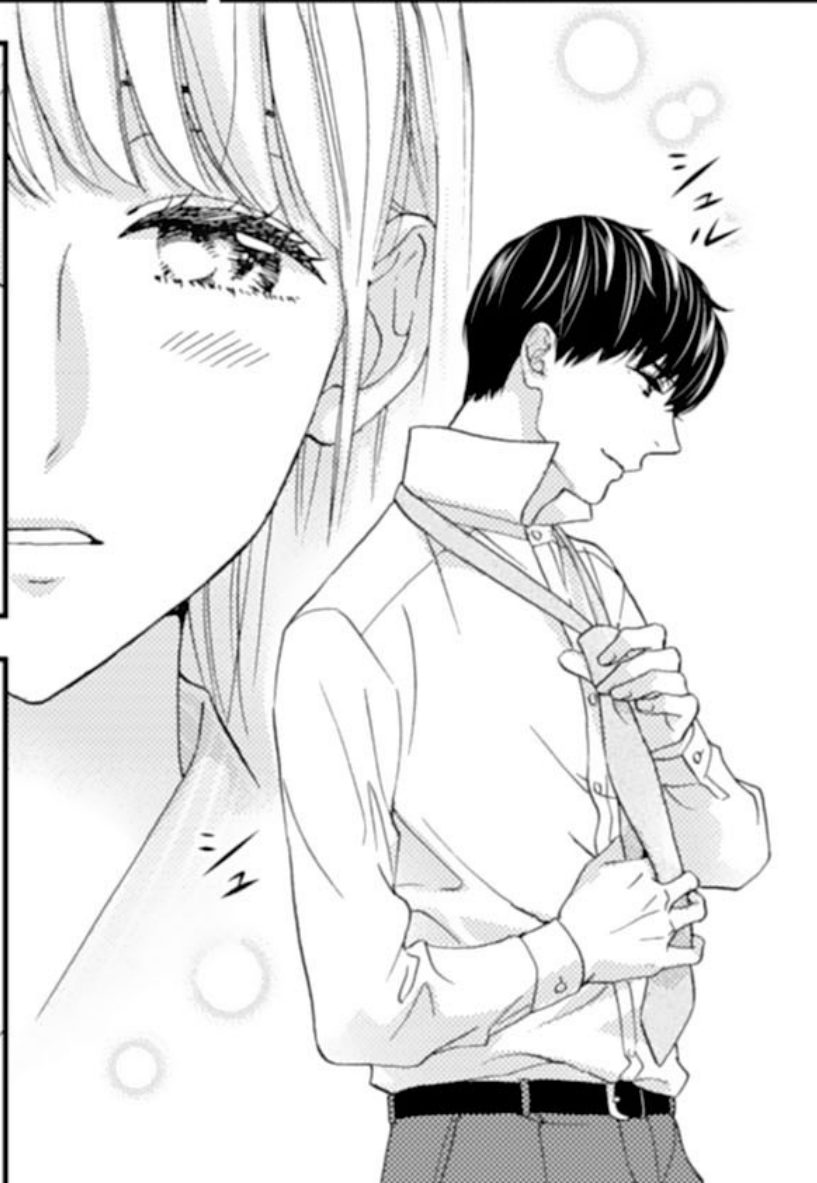


だめだな  
まだ頭が  
回っていない

寝不足かな



...誠司さん





それとも  
縛って欲しかった？

ドクン！

縛…る

今度  
縛ってあげる

手錠なんかじゃなく  
麻縄で…

深雪は肌が  
白いから

赤い麻縄なんか  
似合うだろうね

どう？

嬉しい？

あの誕生日の  
前日の夜以来

時々  
手錠と目隠しで  
拘束されている

性的に支配される  
悦び——あれが  
麻縄になったら…

わたしは  
どうなって  
しまうんだろう…

…縛って…  
もらえるんですか…？

深雪が  
望むなら

すッ

彼は…縛られた  
私を見て  
興奮してくれる？

今キスしたら  
綺麗な口紅が  
取れてしまうかな？

舌を出してごらん







最寄り駅  
どこですか？

うん  
そうだよ

ハキッ



高田さんて  
一人暮らし  
ですか？



う…うん  
ありがとう

うとう  
誠司さんの  
隣が…



栗橋駅なの

あっ僕その先の  
篠原なんです！



そうなんだ？  
特急も止まるから  
便利だよ

はい 大学時代から  
暮らしてて





主任も  
寝るんですね…

ふっ



主任がお休み  
みたいだから  
少し声の  
ボリュームを  
落とそうか

はい



だって  
いつでもきっちり  
していて  
隙がないじゃ  
ないですか

そ…そうだけど…

くすくす



じゃあ二人とも  
お疲れ様

また来週

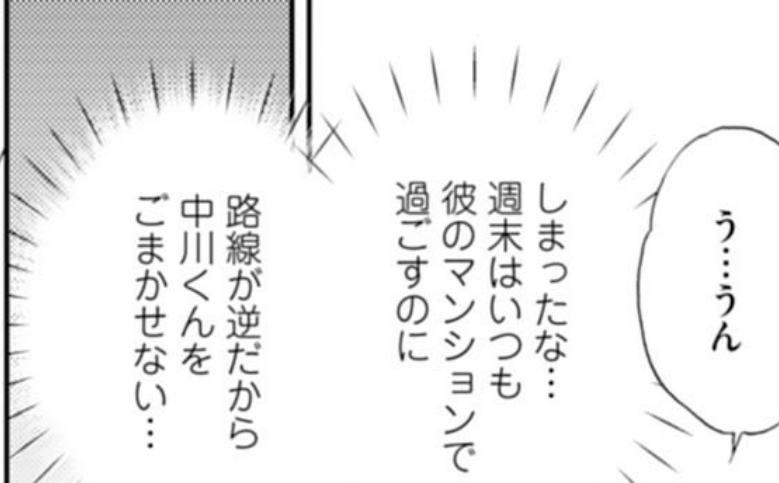
お疲れ様でした  
主任

お疲れ様でした!

高田さん一緒に  
帰りましょう?



栗橋で降りたら  
すぐに誠司さんちに  
折り返そう



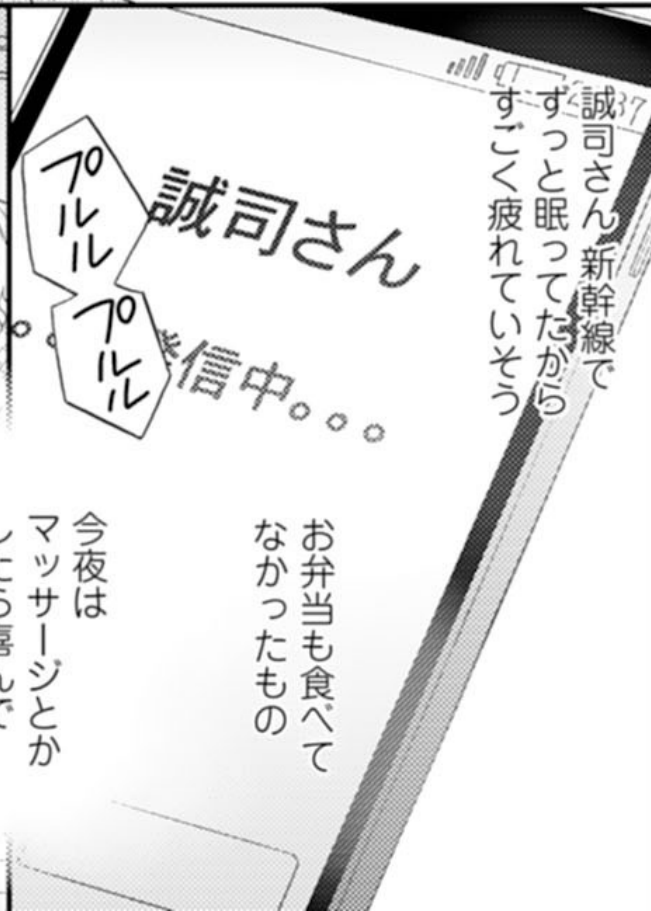
う…うん

しまったな…  
週末はいつも  
彼のマンションで  
過ごすのに



もしもし  
誠司さん!

もしもし?



誠司さん 新幹線で  
ずっと眠ってたから  
すごく疲れていそう

誠司さん  
…信中…

お弁当も食べて  
なかったもの

今夜は  
マッサージとか  
したら喜んで  
くれるかな?

わたし今 栗橋に  
着いたところで――

ん？  
深雪今  
一人なの？

一人ですよ？

誠司さんのところに  
今から行くのかな  
って思ってた

――中川が  
深雪のマンションに  
送ってくれると  
思ったんだけど  
違ったんだね

どうして  
中川くんが？

：深雪も  
出張で  
疲れたろう？

俺もなんか  
疲れた

もう夜も遅いし  
今日はそのまま  
自分のマンションに  
帰りなさい





…わたし…

わたしが行けば  
必ず喜んでくれると  
思い込んでた…



気遣って距離を置く  
こともできないなんて…  
…彼女失格だよ

…はい…



俺も深雪に  
会いたいから  
……ね?



深雪?  
明日おいで…



はいっ!




じゃあ  
明日ね


ごめんね  
送ってあげられ  
なくて…

ううん平気です  
いつも通ってる  
道だから


いや  
もう遅い時間だから  
心配だよ




そうだな  
深雪が家に着くまで  
このまま話していようか



いいんですか？  
でもお疲れ  
なんじゃ…



それぐらい  
平気だよ



今は声しか  
聞けなくても  
明日には会える

明日なんか  
すぐに  
来てしまう

ほんの少しの間

我慢すればいいだけなんだ



To be continued...



# 調教系男子 オオカミ様と子猫ちゃん⑤

著者 あづみ悠羽

©2018 Yuu Adumi

発行 プランタン出版

発売 フランス書院

---

※本作品の内容はすべてフィクションです。  
※本書の無断複写・複製・転載・配信は、著作権法上での  
例外を除き禁じられています。